



■佐藤陽子さん、42歳。  
半年前に夫と死別。  
最近自宅に引きこもりがちであり、民生委員が電話をかけ、約束の時間に自宅を訪問することになりました。



(リビング)

民生委員：こんにちは。

サトウ：わざわざ、お出でいただいてすみません。（元気がなく、落ち込んだ様子。）

民生委員：最近はどうしていましたか。外にも出てこないしね、みんなどうしているんだろうねえと噂していましたよ。

サトウ：はあ～、ちょっと・・・本当に、申し訳ありません。

民生委員：こちらは、いいんですけどね。なんで出てこれないんですか。

サトウ：ええ、少し眠れないんです。食欲もなくて、体重もずいぶん落ちました。  
なんだか疲れてしまって一日中横になってます。頭痛もするし、めまいも。あと手も痺れて。



民生委員：ええ（驚く）？  
一日中横になっているんですか。それはよくないですね。



いったい、なんでそんなことになってるんでしょうか？

サトウ：どうにも疲れてしまって。



民生委員：疲れたっていても…。しっかりしないと。

サトウ：血圧でかかっているお医者さんのところにいったら、特に血圧以外は問題ないといわれました。

民生委員：じゃあ、大丈夫でしょう。ちょっと疲れてるだけです。眠れないとか食欲がないとかもよくあることです。

サトウ：主人が亡くなってしばらくたってから調子が悪くて。何をしても億劫で仕方なくて…

民生委員：でも、ご主人が亡くなったといっても、もう半年前のことですよ。

サトウ：でも、とてもさびしくて仕方ないんです（泣）。

民生委員：そんな弱気になってどうするんですか。ご主人が亡くなったの、もう半年も前のことなんだから、早く忘れないと。

サトウ：すみません。

民生委員：今、だれか面倒見てくれる人いないんですか？

サトウ：実家の家族がいますが、私はお荷物なんです。毎月仕送りをしていただいているんです。これからはきっと医療費や生活費やらで、たくさん家族に迷惑をかけると思います。それが申し訳なくて。

民生委員：そうよ。だから早く元気にならなくっちゃねえ。

サトウ：でも私さえいなければ、もっと家族は自由に…

民生委員：そんなこと言っただけじゃいけませんよ。なんで、そんなことばかり言って。良いご家族がいらっしゃるじゃないですか。ご家族のためにも、もっと前向きに生きていかないと。

サトウ：実は、私、借金も抱えて、生活も厳しくて、とても辛いんです。

民生委員：ええ（また驚く）、サトウさん、あなた借金あるんですか？困ったわねえ。

サトウ：夫が少し借金を残して色々精算したら、まだ他にも借金が残っていたんです。自分自身のお金も使ってしまった。それで、ほかのところから借金して…



民生委員：それじゃあ、大変ねえ。でも、困ったわねえ。ご家族には相談したの？

サトウ：いえ、父や母に申し訳なくて、いえません。

民生委員：でも、お金ないんだったら家族に相談しないと。だって生きていけないでしょ。

サトウ：生きていけないんです。申し訳ないから、死ぬしかないんです。  
私には生きていく価値なんてないんです。



民生委員：そんなこといったら負けよ。

そんなに大変だったら、借金の相談できる弁護士さんとか借金の相談窓口についてみたら？



サトウ：それはどういうところですか。

民生委員：私もよくわからないけど、そんなような相談窓口があるって、この前、聞いたわよ。

自分で調べてみたらわかるわよ。



サトウ：はい、わかりました。

民生委員：とにかく、弱気になったら負けよ。しっかりしなきゃね。なんかあったら連絡してくださいね。



サトウ：はい、ありがとうございます。（最初よりかなり憂鬱な表情）

